

広報 えびな



市の木つげ



市の花さつき

◆ 大字紹介 ◆

なかの野 この地名は「あまり大きくない村落」の意味と考えられる。

発行・海老名市役所・海老名市国分155／編集・秘書広報課／電話・31-2111 (代)／〒243-04

毎月1日・15日発行

ゴミを生かして ゴミをなくそう



新しいほうきで清掃終了(海老名コーポラスの子供たち)

いま、集団資源回収は…

市では、集団資源回収を実施して回収量以上に集めた団体に、一回最高六千円まで支払う「集団資源回収実施奨励金制度」を昭和五十八年七月から実施しています。対象は、子供会、PTA、自治会町内会など市内の各種団体ですが、この制度はゴミの再資源化・減量化が進められるだけでなく、各団体の運営費を得られ、団体内のコミュニケーションを図られたいと、各団体のリーダーから好評です。年々登録団体が増えていき、今回は、そうした団体の一つ「海老名コーポラス自治会」の活動を紹介いたします。多くのおみなさんがゴミをゴミとして処分するだけでなく、地域社会に還元するこの制度を利用して、ゴミの減量化にご協力ください。

役立ててよろう資源ゴミ

清掃用具を購入

「僕たちも拾い完了！」海老名コーポラス(中新田七三十一)では毎月第三日曜日が美化デー。この日は真新しい竹ぼうきやちりとりを手にした子供たちが、団地周辺の清掃に励んでいます。同コーポラス内の「中新田第九子ども会(推原紀子会長、会員六十四人)」が、清掃活動を開始してすでに十年。清掃分担、清掃参加の呼びかけなどすべて子供たちが自主的に行ってきたが、以前は清掃用具が少ないうえに、ゴミの減量化に現存子供たちが使ってい

る清掃用具は、同コーポラス自治会が集団資源回収で得た奨励金で買い揃えたもので、君たちの活動に役立てて」の海に、これだけ能率がある」と子供たちは大張りきりです。ゴミを生かしてゴミをなくす、精神が、こどもも発揮されていました。

田寿会長、会員約五百人)では、年一回行う全住民参加の大そうじ、月一回の廃品回収などの美化活動を組織的に行っています。三年前から始まった集団資源回収にも意欲的で、昭和五十九年度には実施回数十二回、資源ゴミの回収量約十七・三三、市からの奨励金交付額七万・千円という実績があります。

同自治会は、この奨励金で竹ぼうきやちりとり、十六本、シャベ

135団体が登録

昭和五十九年度「集団資源回収実施奨励金制度」には、五十八年度より十七団体多い百三十五団体が登録し、合計千七百七十五の資源ゴミを回収しました。同年度、一ヶ当たりのゴミを、市が回収し処理するには約三万六千円がかかりましたので、集団資源回収に

あなたも登録を

よって約四千三百円の税金が節約されたことになりました。また、集団資源回収の収益金総額は約千四百万円、市からの奨励金交付総額は三百五十四万円になりました。

制度のあらまし

〈対象となる団体〉
集団資源回収を定期的に実施し

ているか、実施しようとする団体で、市に登録した団体です。
〈集団資源回収の方法〉
市に登録した廃品回収業者(四十七業者)に回収してもらい、業者から市指定の仕切票をもらってください。取り扱いはビン類、金属類、紙類、布類です。
〈奨励金の内容〉
奨励金は回収した量の合計が一ト以上あれば支払います。一回当たり

たりの回収量が一トに満たなくても、年度内(四月1翌三月)に行った回収量の合計が一ト以上になれば支払います。また、年度内は一回以上集団資源回収を行えば一トに満たなくても五千円の奨励金を支払います。
〈申請・奨励金の支払い〉
美化衛生課にある奨励金交付申請書に仕切票をつけて同課へ申請。申請書を審査した後、おおむね二か月以内に奨励金を実施団体に支払います。支払いは実施団体の預金口座に振り込みます。団体登録の申し込み、問い合わせは美化衛生課(内24)へ。



百三十五団体が千七百七十五の資源ゴミを回収

一石三鳥！ 集団資源回収の効果

その1、資源の節約、再利用
例えば、1%のアルミニウムを原石から作る場合、アルミ缶を再利用するのとは比べ26倍のエネルギーが必要で、その1割を減らせば、消防車なら9台増やすことができます。
その2、ゴミの減量
市では約2万ト(昭和58年度)のゴミを処理し、その経費は約6億6千万円ですが、その1割を減らせば、消防車なら9台増やすことができます。
その3、地域活動にひと役
収益金による活動の活発化、会員相互の交流を深め、物をたいせつにする心を育てます。

さわやかテレホン

声の市役所だより
ご利用を

☎33・1212



市では、電話で市役所の行事や催しもの、各種相談案内をお知らせしています。電話番号は(33)・1212。さわやかな鳥の声で始まるこの案内は、毎週新しい情報をみなさんにお届けします。

スポーツ特集



いよいよ夏到来。スポーツでいい汗かくのが健康づくりに...



親子で水泳に挑戦 (母と子の水泳教室から)

第九回市水泳大会

七月二十一日(日)午前十時から午後三時まで、海老名プールで、参加対象は市内在住、在勤...

田子の子の水泳教室

七月二十七日から三十一日までの五日間、午前九時半から十一時半まで、中新田小学校...

募集

プール監視員

夏休み期間中の市内小中学校のプール監視員の募集。期間は7月21日から8月31日まで...

いい汗かこう

第九回市水泳大会種目

Table of swimming events including categories like 自由型, 平泳ぎ, 背泳ぎ, and 個人メドレー with age groups and distances.

*各男女別々に○印の種目。 *30歳~39歳の25m種目は女子だけ。

スポーツ大好き



ジムで練習に励む高山さん

精神面でも充実

宮古島のドライブ。高山 信行さん。三ヶ月前、百二十キロを自ら走って走破し、フルマソンの四十二・一九五キロを走り抜く...

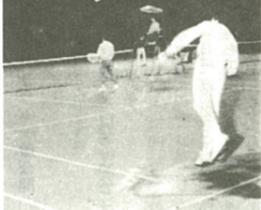
水泳指導者講習会

七月十四日(日)午前九時半から十時半まで午後一時から三時半まで...

ナイター抽選会

海老名運動公園のテニスコート

六月二十四日(月)午後六時受付。六時半抽選開始。市立中央公民館で、抽選は八・九月分の土曜・日曜・祝日・祝日の前日のナイター...



スコアブック

昇級後初優勝。C級では今泉エリムズ(浦戸)が優勝。C級では浦戸が優勝。C級では浦戸が優勝...

7月21日から市総体

申し込みは6月29日まで

第六回市総合体育大会を下記の日程で行います。資格は市内在住、在勤者。申し込みは、問い合わせは六月二十九日までに体育課(内52)へ...

市総体バドミントンの部

七月二十一日(日)午前九時集合。県立有馬高校体育館で、資格は市内在住。在勤者。申し込みは、問い合わせは六月二十九日までに体育課(内52)へ...

第六回市総合体育大会

Table of sports events for the 6th City General Sports Meeting, including Volleyball, Swimming, Archery, etc.

7月の青空市

第3月曜日を除く 毎週日曜日、市役所で 午前7時頃から

市内で生産された新鮮な野菜などを市価より約2割安で、市民のみなさんに。今月の主な出品は長ネギ、トウモロコシ、カボチャ、ナス、ジャガイモ...

7月の相談

Table of consultation services including 市民相談室, 社会福祉協議会, 就業支援, etc.

7月の相談

市民相談室 市役所一階案内係り。一般相談は、土曜日の午後と、日曜・祝日は休み。電話による相談を受け付けています。

社会福祉協議会

市立総合福祉会館内 (31・411) 高齢者の職業相談は、土曜日の午後と、日曜・祝日は休み。対象はおおむね65歳以上の方。

その他

青少年相談は、市立図書館併設の青少年相談所(32・111)にて、土曜日の午前10時以後、日曜・祝日は休み。市立図書館併設の教育センター(33・777)にて、土曜日の午前10時以後、日曜・祝日は休み。事前に電話申し込みを。就業相談は、教育委員会指導室(31・211)内25で行っています。

市史を訪ねて

写真も貴重な資料

46年前の雑誌と写真 大谷の赤井光夫さん所蔵



四十年前の昭和十三年六月、車以上に美しい、車上のむす月(婦人雑誌「新女苑」)に掲載された海老名町風景の「供は王子」と書いています。写真とその掲載誌がみつかりました。田園と都会という二つの顔を持つ海老名町の姿が、赤井光夫さんによって当時の撮影現場(大谷四三六)まで紹介されたのです。

市春季 バドミントン大会 (5月19日) 海老名高校体育館

市春季 軟式庭球大会 (4月28日) 下今泉テニスコート

市春季 卓球大会 (5月19日) 中新田小体育館

46年前の雑誌と写真 大谷の赤井光夫さん所蔵. Includes photo and text about historical photos.

スポーツ

ゲームで交流

市内のお年寄りや母子家庭の親子が一緒にゲームを楽しむ「老人母子運動会」が五月十九日、中新田小学校で開かれ、約八百人が参加した。

同運動会は、市老人クラブ連合会と市母子福祉福祉団休美苗会の会員を中心に毎年五、六月に行われており、今回で十四回目。会場では顔見知りになった子供とお



この日はかりは童心にかえって…
(中新田小学校で)

スカウトも参加

社会地区で相模川美化作戦

毎年恒例となった相模川美化キヤンペーンが、地元社会・今里自治会など三百五十人市内ボーイスカウト・ガールスカウトの三百五十人の協力で、五月十六日に行われた。

今回の清掃場所は東名から南へ六百メートルの範囲、燃えるゴミを拾う人は紙袋を、燃えないゴミを拾う人はビニール袋をそれぞれ手にもってクリーン作戦が展開され



七百人が清掃に協力

図書館などを見学

「山彦の会」が市内施設めぐり

五月二十三日、目の不自由な方々が、ボランティアの人たちと親睦を深める「春の交流会」を開き、市内の施設めぐりを行った。

この交流会は、広報などの点字ボランティアグループ「みどりの会」(森京子会長、会員55人)と録音ボランティアグループ「矢くるまの会」(酒井つね子会長、会員41人)が、市内の目の不自由な方々と構成する「山彦の会」金井昭治会長、会員23人を招待して毎年行っているもの。

参加者三十五人は、当日午前十時に海老名駅前集合し、海老名中央公園、市温故館、市立総合福祉会館、図書館、教育センターなどを訪れた。



ちょっと休憩(対面朗読室で)

全員が上達

下肢身障者がワープロ講習

市内の下肢障害の方を対象に五月二十九、三十日の両日、市立総合福祉会館でワープロ講習会が開かれた。

この講習会は、身障者の職業的な自立を促し、社会参加への道を広げることを目的に市社会福祉協議会が主催したもの。日本電気神奈川県支部(厚木市)が協力しワープロ五台を提供、同社社員が



慣れるとおもしろいわ
(市立総合福祉会館で)



ナマズの孫では?

大谷 小川一雄

昨年の夏、とういうわけか我が家の池の隅や金魚が次々に死んでしまった。そして先日、この半坪ほどの広さの池の中に降ってわいたような生物を発見する。

体長約十センチ、無慮数百、いや数千匹がひしめきあっている。「ひゃあ!オタマジャクシ!」小学生の孫は目を丸くした。ナマ

このコーナーに投稿された方は、住所・氏名を明記し、海老名市役所秘書広報課へ。

ズの子よと妻は言う。一昨年の秋、田んぼを捕まえた二十匹ばかりのナマズを池のすみにあわす。うろに放した、と言うのがナマズの論議、言われてみるとナマズの稚魚に見えてくる。近くの奥さんたちも聞いても決め手がな。

ふと思いついて、落成した図書館へ行く。ゆき福いた設備車イスの私でも自由自在。収容図書は九万冊、貸し出し事務を見てみると、パソコン処理シ



ステムで極めて早い。このシステムで必要項目を入力すれば、目的の図書がすぐわかる。

一階でオタマジャクシの生態を抜き読みし、ナマズを調べに二階の参考図書室へ。淡水魚図鑑のページをめぐる。「あ、化後二三日で三対のひげと尾ひれ、尻ひれの原基、三十五日八、三十八、五ヶ月と頭部は縦扁し、口は大きく。」

ナマズではなかった。自分ながら無知というより、けいけいあった。近日に池のせんで抜き、オタマジャクシを川へ放流しようと思。

横須賀(船車)水道が、上郷から海老名村地を横切って大谷の台地に上る手前の水田を、地元の人たちを作業員として使っていた。昔から「沼」と呼んでいるが、大正四年、鉄管敷設工事中、この地下三メートルの所に不思議な木製器具(写真)が出た。

長径五十九センチ、短径三十四センチ、だ円形で厚さは約九センチ。お盆のように中に盛りぬいたもので、片方に長さ十二センチ、直径三・三センチの丸い棒状の把(とっ)手がついている。縦に長い大きなフライパンのような形状のものである。

考古学者、先住民民族だ、遺跡調査などして、それを家にとり洗って、おぼろげに、その代り、踏みこんだスコップのために二に割れた木片を作業員は無造作に穴の底からほり上げてきた。

この工事を請負った水野組は、



現在の「水道みら」というバス停の近くに事務所を置き、地元の人たちを作業員として使っていた。昔から「沼」と呼んでいるが、大正四年、鉄管敷設工事中、この地下三メートルの所に不思議な木製器具(写真)が出た。

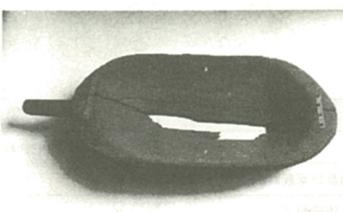
長径五十九センチ、短径三十四センチ、だ円形で厚さは約九センチ。お盆のように中に盛りぬいたもので、片方に長さ十二センチ、直径三・三センチの丸い棒状の把(とっ)手がついている。縦に長い大きなフライパンのような形状のものである。

考古学者、先住民民族だ、遺跡調査などして、それを家にとり洗って、おぼろげに、その代り、踏みこんだスコップのために二に割れた木片を作業員は無造作に穴の底からほり上げてきた。

この工事を請負った水野組は、

用途不明の木器出土

その後の器具が何に使われたものかについては、弥生時代の農具の一種、箕(み)であろうと言った人もおり、また水田の上を滑らせる木を運ぶ田船(田舟)だろうという人もいた。これは地元の地形や言い伝え、そして出



魚を調理するのに使われた、という説も…

土当時の様子を知らない人の憶測で、いまもって何に使ったものかは謎(なぞ)とされている。しかし出土当時の事情に詳しい

この出土に刺激されて、工事現場の近くへ行くには、魚が焼かれたという子供の中には魚貝に使った素焼きの甕(おもり)をたたくと集めたものもいた。いずれも現在温故館に保管してあるはずである。

なおこの台地下には、下沼・大沼・六つ沼、そして国分に午ヶ淵などの地名が並んでおり、これを結ぶと、やはり「沼」(りょう)その地方地方の民衆の間に伝えられて来た歌の「七里長池」が

(大谷の小島直司氏寄稿)